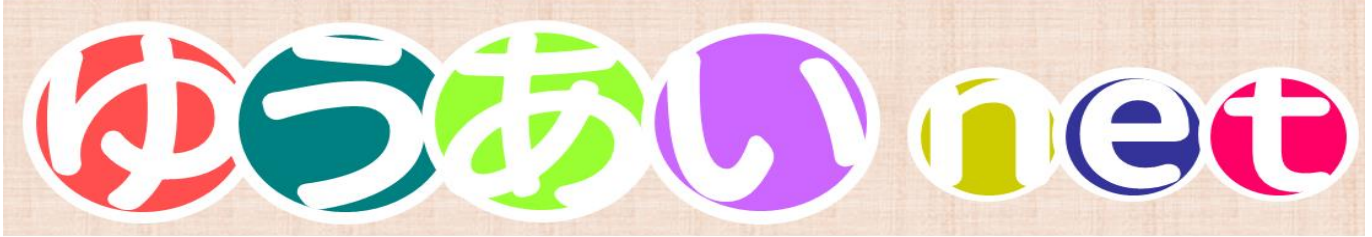


佐賀県の視覚障害教育を結ぶ



## 第1回弱視学級担当者等研修会 開催

4月22日(月)に今年度第1回目の弱視学級担当者等研修会を行いました。年度初めの忙しい時期でしたが、11名の先生方に参加していただきました。

初めに自己紹介をしていただいた後、研修として『弱視学級の指導・支援について』を行いました。弱視とはどのようなものを指すのか、また、弱視の子どもたちの自分の見え方の捉え方などについて、演習を交えながら説明いたしました。

その後、フリートークという形で現在の状況や困られていること、気になっていることなどを先生方それぞれから出していただきました。以下がその一部です。



- ・交流学級で眠ってしまうことが多い。原因とその対応は。
- ・移動や運動の際など、どの程度支援が必要なのか。
- ・自立活動でどのような内容で取り組めばよいのか教えてほしい。
- ・文字をたどたどしく読んだり、読み間違いをしたりする。

短い時間ではありましたが、お互いに意見交換をしながらそれぞれ解決の糸口を探りました。

見えにくさのある児童生徒は一人ひとり見え方が違います。研修で取り扱った基礎的・概論的な内容をもとに、それぞれに合わせた指導や支援を考えていただければと思います。もちろん、盲学校もできる限りのサポートをしていきますので、お気軽にご相談下さい。

## 自立活動

「自立活動をしなければいけないけれど・・・」「自立活動で何をすれば良いのか・・・」という声を聞きます。そこで、今回は自立活動について考えてみたいと思います。

自立活動とは・・・

特別支援学校の教育課程に設けられた、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導領域

目標は…

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

とあります。【特別支援学校学習指導要領より】

同様に、特別支援学級において『特別支援教育』を必要とする児童生徒も、自立活動による学習が必要です。もう一つ確認しておきたいのは、「自立活動は各教科や領域などのベースにある」ということです。教科や領域の指導の時間であっても、自立活動の指導は行われることとなります。見えにくさを持つ児童生徒にとっては、拡大や解説、視覚補助具の利用など(の指導)がそれに当たるということです。さて、では自立活動でどんなことを指導すれば良いのでしょうか。

学習指導要領には自立活動の内容として「健康の保持」、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「身体の動き」、「コミュニケーション」の6つの区分とそれぞれの会に27の項目が示されています。これを念頭に、視機能(視力、視野、遠近感、情報処理等)の状態や行動観察、各種視力検査、諸検査、そして本人や関係者の聞き取りなどの実態把握を行い、そこから指導内容の検討や目標設定を行うことが多いようです。

指導の内容の例としては次のような事項があります。

## ○物の見方

いろいろな物の大きさや形、色などをよく見たり、細部まで詳しく見ようとしたりする態度と習慣を育てる。



見えるところまで近づいたり(対象物を)近づけたりして、しっかり見るように促します。

## ○視覚管理

自分自身の眼疾患等や見え方の状態を把握し、配慮や管理ができる力を養う。

私の見え方について

●私の視力は 5 m離れた遠距離では  
両眼 0.2 右眼 0.2 左眼 0.2

●私の視力は 30 cm離れた近距離では  
両眼 0.2 右眼 0.15 左眼 0.2

●私が見やすい文字のフォント(書体)は  
UD 教科書体、UD ゴシック体

●私が見やすい文字のポイント(大きさ)は  
22 P(ポイント)です。

●私は黒板の5 cm四方くらいの文字が  
3 mくらいまでなら見えます。

●黒板に書かれたチョークの色は  
黄色、白色が見えやすく

自分の見え方をきちんと把握させ、必要な時にはそれに応じて支援を求めたりさせます。

## ○視覚補助具の活用

弱視レンズや拡大読書器などの視覚補助具を活用できる力と態度を養う。



単眼鏡やルーペのスキルは  
学年が上がるにつれ、重要度  
が増してきます。

## ○目と手の協応動作

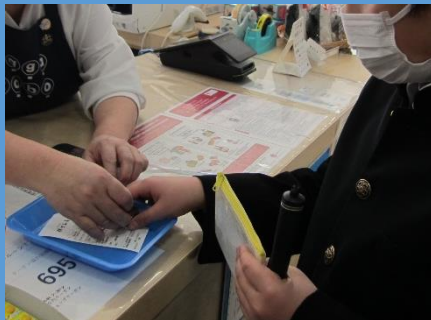
線や図形などの作図、書字、工作やはさみ、コンパス、定規の扱い、実験器具の操作、各種作業などを通して指導する。



生活や学習でよく使う用具  
などはきちんと使えるよう  
にしっかり練習します。

## ○社会生活スキル（基本的な技能）

買い物、調理、清掃、更衣、移動、遊び、情報収集や選択、コンピュータの操作と利用などの社会生活スキルを高める。



買い物は金種の把握、財布へ  
の出し入れ、レジでの支払い  
方法などたくさんの指導要  
素を含みます。

気をつけていただきたいのは、自立活動の時間に練習すべきことを、教科等の時間に行わないということです。例えば「単眼鏡がうまく使えないから、教科の時間にもなるべく使わせて上手にしよう」とすると、教科の理解、スキル共に中途半端になります。自立活動の時間を確保し、しっかりと指導をして、正しいスキルを身につけさせましょう。

以上、自立活動について述べてきました。自立活動の指導については高い専門性が必要となる場合もあるため、引き続き必要な情報等をお伝えしていければと考えています。